

おわりに

伊都キャンパスへの第1陣移転により、多くの人々の本事業に対する理解を深めることができた。移転がスタートしたこの時期に「理学系地区基本設計」をとりまとめることができたのは、理学系の教職員および関係者の理解と推進に多くを負っている。工学系地区につづく建築デザインの一体性、デザイン継承の点からも、工学系地区、センター地区に続き、継続して検討する意義は大きい。「理学系地区基本設計」の策定によって、次のステップである理学系移転に向けた準備が整い、建物設計や工事等のアクションへと速やかに移行できるようになった。

九州大学が伊都キャンパスの整備を完遂し、西日本における知の拠点として、地域とともにさらなる発展を遂げる姿が希求される。キャンパス整備は道半ばであり、まちづくりとの連携など、地域とともに引き続き検討すべき課題もある。伊都キャンパス整備と伊都キャンパスを核とする九州大学学術研究都市づくりに向けて、関係各位のご支援を引き続きお願いする次第である。